

# 佐々木家曲家

## 概要

佐々木家曲家は、南部地方特有の家屋形態を今に伝える町内でも数少ない貴重な建造物として、昭和61年1月27日に町指定有形文化財に指定されました。その後、同年に町内藤沢地区にあったものを解体し、資料館の北側の敷地に移設復元されました。

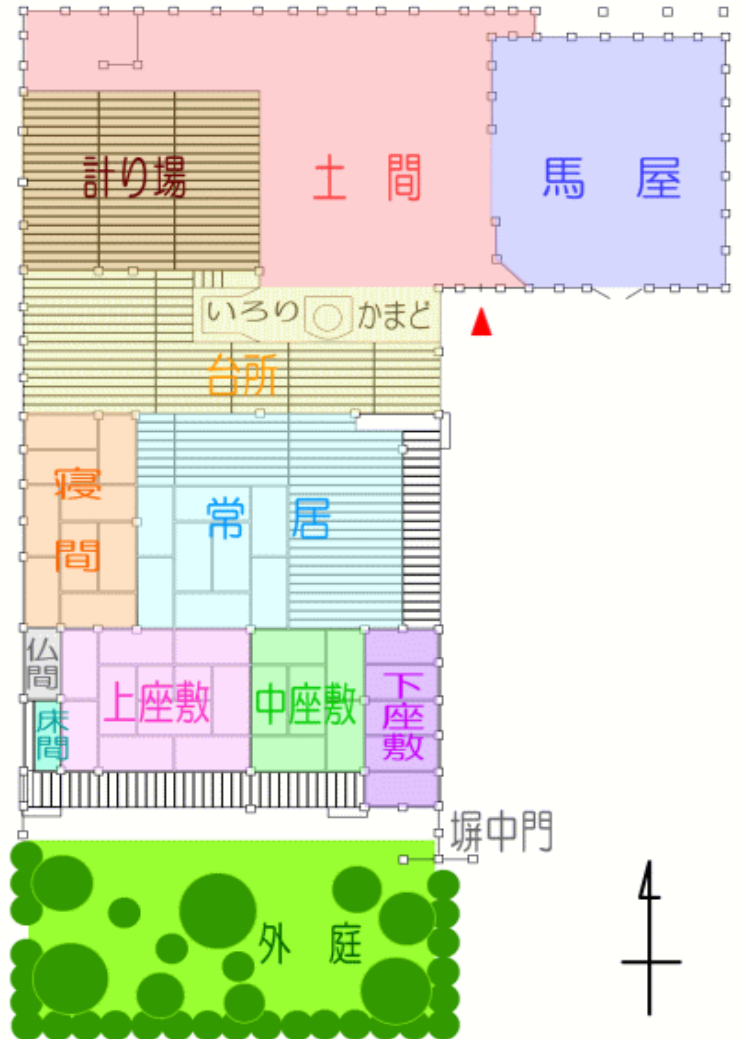
母屋(おもや)の北側に、南向きの馬屋(うまや)が取付く典型的な形式で、藩政時代は村役と呼ばれる、現在の村長にあたる役職の家であったため、建坪は90坪と大きいものになっています。

母屋は基本的には、食違四間取型式の前常居型で、庭寄りに常居(じょい)と寝間(ねま)があり、その南隣には上座敷、中座敷、下座敷の畳敷きの3間が外庭に面しています。



母屋と馬屋を連結する土間(どま)は別名『庭』と呼ばれ、生活の主体をなす空間でした。小作農家から収められた米を計量する計り場(はかりば)と呼ばれる板間もこの空間に含まれています。

外庭には、塀中門(へいじゅうもん)と呼ばれる門があり、座敷と外庭とが一体化し、その格式高さを今に伝えています。

現在は、町民のみなさんから寄贈していただいた民俗資料の中に展示しております。



## 間取り

母屋(おもや) 人々の居住空間	常居(じょい)	いろりのある部屋で、その家の人々が集まる居室のことをいい、現代で言うところのリビングを指しています。	
	寝間(ねま)	一般的な言葉では納戸(なんど)と呼び、住宅の中で諸道具を入れておく部屋のことを言う。佐々木家では、主に老夫婦の寝室として使われていた。	

## 佐々木家曲家

母屋(おもや) 人々の居住空間	上座敷(かみざしき)	仏間があり、藩の役人などが使用していた部屋。	
	中座敷(なかざしき)	普段は使用されず、客人をもてなす時などに使用していた部屋。	
	下座敷(したざしき)	佐々木家では、主に若夫婦の寝室として使用していた部屋。	
	仏間(ぶつま)	祖先の霊などを祭る部屋です。	
	床間(とこのま)		
土間(どま) 人々の作業空間	土間(どま)	庭(ニワ)とも呼ばれ、住宅の玄関と、ワラ打ちなどの作業場を兼ねた場所です。	
	計り場(はかりば)	小作農家から収められた米を計量する場所で、普通の農家にはない。	
馬屋(まや)		文字通り、馬を飼うための小屋を言います。盛岡を中心とする旧南部藩領では、移動のためだけではなく、農耕のためにも馬を使い、非常に重宝していました。そのため、常に馬の健康状態を把握できるよう、屋内で飼っていました。	

### 棟 札

棟札には、母屋と馬屋の設計図が描かれており、「建家仕」の文字と共に大工棟梁名と建て主名が記されています。

		大工棟梁郡山下町 儀兵衛 年 五拾六才 建家仕 佐々木長之助 年 五拾三才 文久三癸亥歳 二月吉日 ※文久三年(一八六三年)
佐々木家棟札(裏) 設計図(柱の番付け)	佐々木家棟札(表)	

# 佐々木家曲家

## 民族資料

ここでは、現在佐々木家曲家に展示してある民俗資料を紹介します。



嬰兒籠  
(えじこ)



行李  
(こうり)



錢箱  
(ぜにばこ)



箱火鉢  
(オカロ)



長持  
(ながもち)



石臼